

ない。特殊性の問題である。

4 故にかうした現実の、児童に切實な問題によつて、等分包含、剩餘のある場合の處理等を全部合理的の説明によつて理解せしめることは、これが本當の算術である。

5 例へば、假に五十七人の組であるなら次のやうに計算せしめる。

$$\begin{array}{r} 2) 57 \text{人} \\ \hline 28 \text{人} \dots \text{アマリ } 1 \text{人} \end{array} \quad \begin{array}{r} 3) 57 \text{人} \\ \hline 19 \text{人} \dots \text{アマリ } 1 \text{人} \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 5) 57 \text{人} \\ \hline 11 \text{人} \dots \text{アマリ } 3 \text{人} \end{array} \quad \begin{array}{r} 6) 57 \text{人} \\ \hline 9 \dots \text{アマリ } 3 \text{人} \end{array}$$

6 この計算は、最初から被除数の各桁が整除されない場合があるけれども、それは、頓着する必要はない。

7 次に算術書の問題は、計算形式の難易の順に教材が排列されてゐる。最初の(5)は、被除数の各桁が完全に整除される場合のみであり、(6)は、被除数の各桁の中、一桁だけ整除されぬ場合がある。

8 本問題の形式算練習は、前掲の如き事實算の計算能力を一層熟練せしむるためのものであることを理解せしめて、これが計算練習を課す。

9 最初の(5)の如きは、短除法の形式によらないでもよい。なるべく視暗算によつて、正確敏速に解答せしめるやうにしたい。

(四) 算術書七五頁問題(7)問題(7)の取扱

1 前時間の連讀として、直に形式算計算練習に取からしめても差支ない。

(五) 算術書七六頁問題(8)(9)の取扱

2 本問題は、所謂剩餘のある場合であるが、由來剩餘なき除法といふものは、甚だ特殊な場合にのみ存在するものであることは前述の通りである。故に特に必要教材として取扱ふがよい。

3 更に算術書の教材排列は、甚だ教育的でない。單なる分類は決して有意義なものではない。この必要教材である剩餘ある形式算問題も、全然剩餘あるもののみを(7)に於て集めるといふことは、折角の教材を機械的にしまつて、本當の練習にはならない。矢張り整除し得るものとこの中へ混出することが大切である。況んや復習整理の教材に於てをや。

4 問題計算を見童に命じ、計算能力の長じたもののため、適當な副題を提出しておく。

5 教師平素能力劣れる児童の個別指導を行ひ且つ全見童の進行の程度を観察する。

6 途中検答の準備として、三四名の児童に板上演算をなさしめる。

7 検答については、單なる答數の正否を検するだけではならない。計算経路の過程といふものをよく吟味する必要がある。

(五) 算術書七六頁問題(8)(9)の取扱

1 本學年除法教材中最も大切であり最も困難とせる法二桁の數の場合の計算形式の復習及び整理をこの所に於て行ふ。

2 除數二桁の場合になると、児童の生活上の事實についてかかる計算を必要とするやうな數的事實はあまり容易に得られない。そこで次のやうな問題を教師の方から與へるやうにしても差支ない。

(イ) 四十五枚の養用紙を十五人でわけると、一人何枚か。

(ロ) 六十枚なら、一人何枚づつわけられるか。

(一) 九十枚なら何枚づつわけられるか。

2 右の如き問題を課することによつて、等分除の除法適用による問題解答をなさしめる。

3 此の如き事實問題解決上に必要な除法の形式算について特に正確敏捷を期するため、算術書問題(8)及び(9)を練習すべきことを知らしめる。

4 問題(8)は、主として商一位の場合の形式算であつて上四段は整除される場合、下一段は剩餘ある場合である。不規則に排列してある方が、有意義であるが已むを得ない。

5 児童に計算を命ずると共に、二三の児童に板上演算せしめ、やがて検答の際之を利用して、除法について吟味整理するがよい。

6 問題(9)は、主として商二位、若くは三位の除法形式算の問題である。而して、前問題と同様、上四段は整除し得るもの、下一段は剩餘あるものを排列してゐる。

7 前題の検答後、児童に計算を命じ、二三のものに板上演算せしむること、凡そ前問題取扱と同様でよい。

(六) 算術書七六頁(10)問題(10)の取扱

法三位の場合の除法形式算の復習整理をなさしめる。

1 三位數の除法は商一位のもの、二位のもの、及びその各々の場合の剩餘あるものがここに排列されてゐる。

2 例によつて剩餘あるものは、僅に最後の三位しかない。三年の教材として、法三位のものは相當に困難なものであるから、ここで剩餘のあるものは少々無理とも考へられる故に、これ位で或は適當で

あらう。

3 法三位のものの最も困難とするところは、やはり商發見そのことである。故に商發見については、或程度まで、機械的方法を必要とする。これは本學年程度に於ては已むを得ないことであらう。

4 商發見の一般的方法は、大體次のやうな順序に行ふがよいと思ふ。

(一) 法が三位ならば、實も左端より三位をとつて、第一部分除として比較する。

$$\begin{array}{r} 3 \\ \overline{) 639} \\ 639 \\ \hline 0 \end{array}$$

(口) 従つて商は、實の9の上に立てることを先づ意識せしめる。

(二) 大に商發見の方便として、法の左端の數字2と、實の左端の數字6とを比較して

實の6は法の何倍かを見ると、丁度三倍になつてゐることがわかる。

(三) 依つて、商を假に(3)として、法を三倍して見ると、丁度實と等し數になるから、ここで商は確定する。

5 右の例は誠に好都合に一度で商が發見し得たが、いつもさうばかりはゆかない。例へば次のやうなのはその例である。前と同一筆法でいくと、最初假商として、9を立てるが、これは適當でないことが直ちにわかる。その次に8・7・6と(1)づつ減らして假商を吟味するに至つて、始めて正しい商となる。

6 此の如き手段は極めて迂遠ではあるが、三年の程度に於ては、しばらく迂遠な方法をとらしめておく方が適切であらうと思ふ。

7 児童に計算を命じたらば、なるべく多數の児童に板上演算をなさしめて、やがて検答の際計算過程の吟味を適當に行ふ機會を作るがよい。

(七) 算術書七七頁(11)(12)の復習

將來加減乗除混合の計算について、算術上の規約事項を教授する準備としての式題計算を課し、次に金高度量衡の名数計算によつて、除法の大切な等分包含の區別を復習し整理することになつてゐる。

- 方法加減乗除の符號を重ねて使用せる式題といつても未だ算術上の規約を守らしめて計算するといふが如き程度には至つてゐないが、兎も角問題(11)は單なる除法でもなく、又乗法でもなく除法と乗法、除法と加法、除法と減法等が混合されてゐる。
- 本問題は、左端から順序を正しく計算よればよいといふことを復習し、實際に計算せしむる程度でよい。

- 大に名数計算による、等分除包含除の問題は、かかる所に集めて提出するよりも、平素生活上の事實問題に遭遇せし機會に於て、生きた問題についてこれを取扱ふことの方が遙かに教育的であり有効であるが、算術書はさうした考を表はしてゐないのが、少からずものたりない點である。
- 等分除包含除を單なる知的説明にのみよつて解決しようとしたとて、それは甚だ無意味なものであるから、何處までも兒童の生活中に起り得る卑近な事實問題について理解せしめるやうにしたい。
- 従つて本問題の如きは、その練習問題として、之を取扱ふやうにしたい。計算を命じたらば板上演算も二三名之を行はしめ、これを利用することによつて、正しくこの區別を理解せしむべく復習し整理する。

(八) 算術書七七頁問題(13)(14)の復習

日時の問題について計算せしむることにより、時間觀念の確立のため、これが復習整理を行ふ。

- 時間に関する單位關係について、一通りの復習を行ふ。

(1) 日、時、分、秒、の單位關係
(2) 年、月、日 の單位關係

- (ハ) 週、日 の單位關係
- 時間問題に於て「日、時、分、秒」は最も生活上密接な關係のあるもので、従つて算術上の問題としても、これが非常に多い。

3 年、月、週の如きは、稍々別な方面的問題で、平素社會生活上相當に關係あるものであるから、何れにも輕重をつけるわけには行かぬ。

4 時計の見方、暦本の見方、これは何れも、吾人の生活上に一日も缺くべからざるものであるから、その取扱にはかなり工夫を要する。

5 況してや時間觀念附與といふことは、かなり困難なことであるからである。

6 算術書の問題は、昔の不十進諸等數の通法命法といふのがあつたが、全くそれである。これは甚だ遺憾なことで、もつと生活に密接な問題を捕へることが肝要であらうと思ふ。算術書は算法といふものにのみ拘泥しすぎてゐるやうに思ふ。

二 應用問題九 (算術書七八頁——八一頁)

應用問題については、これまでしばしば述べたことと思ふからあまり詳細に亘つては、ここには述べないこととする要するに應用問題といふ名稱は少くとも適切ではない。而して形式算問題、名數式題問

題、應用問題といふ三段の排列法は、新主義算術の立場から見ると、甚だ價値のうすいものである。

現行算術書の編纂態度は、舊式の境外に一步をも踏み出しえないので、遂に度量衡法の大改正といふ好因のチャンスをすら姑息手段で逃がしてしまつた様な實状である。

さて本問題取扱の要旨としては、今まで應用問題として算術書にあらはれてゐたものと、多少異つた立場がある。それは外でもない。今まで、乘法形式算の後には乘法應用問題、除法形式算の後には除法應用問題といつたものであつた。ところが今回は、本學年の總復習教材である。復習教材としての形式算問題が、如上の加減乗除あらゆる本學年全般の教材に亘つてゐる關係上、こここの應用問題も亦、あらゆる算法の場合の應用問題である。

從來應用問題とはいふものの、乗法形式算の後に乘法に關する應用問題ばかりといふことは、あまり機械的でありすぎた。そんなことをしてゐるから、甚だしきに至つては所謂解題力の實力といふ様なものは之を望むことの方が無理であつた。

從來の算術書の應用問題の所でもしばしば主張したところであるが、除法なら除法のみによつて解決し得る事實問題をここに排列したとて、それは何等の兒童の思考を要せずして何れも除法適用によつて解決し得たのは、教育上如何なる價値を有つものであらうか。これには少からず考へさせられる。

故にこの機械的計算に陥らない様にする手段の一として、假令除法の形式算の後であつても、その應用問題は、加減乗除何れをも混出すべきであると主張した所以である。

然るに木應用問題には、恰も各種異つた計算の種類の事實問題が排列されてゐることとて、算術書中最後に於てはじめて、本當の實力をためし得る應用問題があるわけである。

この意味に於て、本應用問題は、豫めあまり親切すぎないやうに取扱ふことが肝要である。あまり親切に讀解せしめたり、大要を質問によつて答へしめたりすれば、折角の問題も亦、兒童は單なる計算だけすれば事足るといふやうなことになつて、甚だ價値なきものとなり終るであらう。

(一) 算術書七八頁問題(1)(2)(3)(4)(5)副題(1)(2)(3)(4)(5)の取扱

加減乗除に關する問題につき讀解力、理解力計算力等を檢す。

- 1 先づ最初から全く兒童に獨自的に解答せしむる方針で、適當の時間を之にかける。
- 2 勿論文字・文章で不審の點は之を質問によつて、なるべく親切に知らしめるが、苟も問題解答に關することは最初は、少しも助けないで兒童に試みる。
- 3 大體の兒童が大要計算出來た頃検答を行ふ。検答の時使用する目的の必要上、兒童に板上演算せしめることもよいが、この所では各兒獨自に解答せしむる必要上、之を敢て行はない。
- 4 教師は机間巡視に於て、大體全兒童の傾向を觀察しあき検答の場合には、著しい特徴をもつ兒童數名に解法を發表せしめて、これについて吟味する。
- 5 然る後、教師用書副題計算及び教師の準備せる補充問題取扱を行ふ。
- 6 補充問題として、左の如きものをえらぶ。
 - (イ) この最初にもつてゐたお金は、どんなお金でもつことが一ぱんお金の數が少くてすむか。
 - (ロ) 二十二圓の金高をどんなお金で持つことが、一ぱんお金の數が少くてすむか。
 - 又五十錢銀貨で持つと、何枚になるか。
 - (ハ) 八十錢足さない前に、十錢白銅貨が十六個あつた。

十六人が、五銭白銅貨がなくて、出したものである。併しすぐに五銭の白銅貨をおつりとしてもつていつた。後に残つてゐる五銭白銅貨貨はいくつか、又いく錢か。

(二) 四十八人であつめる所を、六十人に増したら、一人は幾錢ですか。

(ホ) 太郎が一分間に四十メートルづつ歩けば家を出て學校を通りお宮までいくに何分かかるか。

(二) 算術書七九頁問題(7)(8)(9)(19)訓練(7)(8)(9)(10)の取扱

大體に於て、前同様であるが、ここに目測の問題がある。由来自測といふことは、吾人の生活上、かなり重要なことで、平素よりかうした訓練をすることは、甚だ大切なことである。

從來幾多の経験を得てゐる大人には兎も角、三年兒童位に目測等は甚だ高尚にすぎるもののやうに考たやうな事實もある。これは大なるあやまりであつて、かうした陶冶を三年頃より経験せしむればこそ、將來容易に目測といふやうなことになれることが出来るのである。

目測といふことの前には、當然實際といふことがなければならぬ。それから歩測・目測といふやうな順序がある。但し算術書の問題の如きものは、實際から直ちに目測に入つても差支ない。

- 1 目測の問題は、適當な補充問題によつて、なるべく多く経験せしむるがよい。
- 2 尚最初目測して記録し次に實測しては記録し、その記録を全部あらゆる場合のと比較して見ると、目測實測との差が、漸次減少して行く事實をよく認め得るものである。これは目測上達をせしむる一方法である。
- 3 廉用問題及び問題の取扱については、前時間の取扱と同様でよい。
- 4 補充問題として、凡そ次のやうなものをとるがよい。

- (イ) 飛行機は凡そ二四〇〇メートル位の高さまでのぼることが出来る。この飛行機の何倍か。東京や大阪のやうな大きな町の上では、一〇〇〇メートルより低く飛んではいけない規則がある。この飛行機の何倍の高さか。
- (ロ) 一分間に三ミリメートルの高さづつ降る雪は、少しもとけないと、一時間に何ミリとなるか。又何センチとなるか。
- (ハ) 一箇十五錢のリンゴは二箇でいくら。三箇でいくら……といふことを次の表の中へ記入して見よ。

金額	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
金額	15錢									

(二) 一箇二錢五厘のミカン十箇までの代を次の表へ記入せよ。

金額	1圓	2圓	3圓	4圓	5圓	6圓	7圓	8圓	9圓	10圓
金額	2錢									

(ホ) 一圓で五リットルの豆十圓までの量を次の表へ記入せよ。

金額	1圓	2圓	3圓	4圓	5圓	6圓	7圓	8圓	9圓	10圓
金額	5厘									

(三)算術書八〇頁問題(11)(12)(13)(14)(15)副題(11)(12)(13)(14)(15)の取扱

1 取扱の方法は、全く前時間と同様でよい。補充題として記すところのものは、算法については必ずしも主題と同様なものではない。即ち形式的の補充題にのみよらず、内容的に關聯せるものを澤山とするといふ趣旨から、此のやうに考へたのである。

2 左に補充問題を前述のやうな考で記することとする。

(イ) 茶は六〇〇グラムを一斤といふ。一斤一圓八十五錢の茶としたら、十五斤の代いくらか。

(ロ) 茶は一斤の半分を半斤といふ。何グラムか、又半分のまた半斤を四半斤といふ。これは何グラムか。

(ハ) 邪が一箇五錢の時、三百七十五箇買入れて、これを一箇八錢づつに賣ると、いくらもうけられるか。

(ニ) みかん一箱九十六箇入りのものが、一圓九十二錢であるとこのみかん一箇いくらか。

(ホ) 曾前五時間はたらくには、朝何時から仕事にかかるべならぬか。又曾後六時間はたらくには夕方何時まではたらかねばならぬか。但しお曾後の仕事は一時からはじめる。

(四)算術書八一頁問題(16)(17)(18)(19)副題(16)(17)(18)(19)の取扱

1 大體に於て取扱方法は、前時間と同様でよい。ここには補充問題を記することとする。

2 補充問題の取扱ひは、教師用書副題の終つたもののために與へるやうにしたい。

(イ) 算術書(16)の圓を十錢白銅貨とすればいくらか、この金高をどんなお金でそろへると、お金の数

が一ばん少くてすむか。

(ロ) 甲組の生徒と、乙組の生徒とくらべると、どちらが何人多いか。

(ハ) 一本五錢の鉛筆一本から十二までのお金を次の表へ書き入れよ。

大錢	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
小錢										
合計										
合計										
合計										

書全方へ教

- (22) -

術算の三等

錢五十四價定

製複許不

10.10. 6

明和十年十月五日印刷
昭和十年十月九日發行

著者 山内俊次

東京市麹町區下六番町四十八

發行者 岡本正一

東京市麹町區土手三番町二九

印刷者 谷口熊之助

東京市麹町區土手三番町二九

印刷所 谷口印刷所

所行發 東京・麹町・下六番町

厚生閣

電話九段三二一八番
振替東京五九六〇〇番

厚生閣版教育書選

(出版總目錄無代進呈)

☆教へ方全書

1 尋 一 の 修 身	野瀬寛顯著	新四大判布製	入	價〇・四五	送料
2 尋 一 の 讀 方	池内房吉著	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
3 尋 一 の 算 術(上卷)	徳田進著	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
4 尋 一 の 算 術(下卷)	奈良女高	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
5 尋 一 の 練 方	池内房吉著	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
6 尋 一 の 體 方	富原義徳著	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
7 尋 一 の 唱 歌	寺谷朝藏著	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
8 尋 一 の 圖 畫	小出浩平著	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
9 尋 一 の 手 工	横井寅一著	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
10 尋 一 の 學 級 經 營	村田英吉著	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
11 尋 二 の 修 身	野瀬寛顯著	新四大判布製	入	價〇・四五	○六

12 尋 二 の 讀 方	東京女高	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
13 尋 二 の 算 術	東京女高	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
14 尋 二 の 體 方	東京竹町	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
15 尋 二 の 練 方	東京兒童	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
16 尋 二 の 唱 歌	東京高師	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
17 尋 二 の 圖 畫	東京高師	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
18 尋 二 の 手 工	東京高師	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
19 尋 二 の 學 級 經 營	東京高師	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
20 尋 三 の 修 身	東京女高	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
21 尋 三 の 算 術 方	東京女高	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
22 尋 三 の 體 操 方	東京高師	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
23 尋 三 の 算 術 方	東京高師	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
24 尋 三 の 體 操 方	東京高師	新四大判布製	入	價〇・四五	○六
25 尋 三 の 唱 歌	東京三河	新四大判布製	入	價〇・四五	○六

全教書方	53	尋六の學級經營	調 東京兒童の村主事	野村芳兵衛著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	52	尋六の地理	調 東京高師	柴田來著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	51	尋六の國史	調 東京成蹊	栗山重著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	50	尋六の理方	調 東京女高	佐藤德市著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	49	尋五の算術	調 東京高師	岩瀬六郎著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	48	尋五の修身	調 東京女高の督主事	野村芳兵衛著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	47	尋五の國史	調 東京高師	碓井正丸著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	46	尋五の地理	調 東京高師	高村廣吉著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	45	尋五の地	調 東京高師	浅黄俊次郎著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	44	尋五の理	調 東京女高	坊田壽眞著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	43	尋五の工	調 東京高師	横井曾一著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	42	尋五の圖	調 東京三河	大竹拙三著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	41	尋五の唱	調 東京高師	三本重長著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	40	尋五の手	調 東京高師	岩瀬六郎著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	39	尋五の理	調 東京高師	佐藤徳市著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	38	尋四の圖	調 東京高師	田中豊太郎著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	37	尋四の唱	調 東京高師	高村廣吉著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	36	尋四の工	調 東京高師	坊田壽眞著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	35	尋四の圖	調 東京高師	横井曾一著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	34	尋四の唱	調 東京高師	大竹拙三著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	33	尋四の工	調 東京高師	三本重長著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	32	尋四の圖	調 東京高師	岩瀬六郎著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	31	尋四の唱	調 東京高師	佐藤徳市著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	30	尋四の工	調 東京高師	田中豊太郎著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	29	尋三の理	調 東京高師	高村廣吉著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	28	尋三の工	調 東京高師	坊田壽眞著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	27	尋三の圖	調 東京高師	横井曾一著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	26	尋三の唱	調 東京高師	大竹拙三著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科

全教書方	40	尋五の算術	調 東京高師	開根忠著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	39	尋五の綴方	調 東京高師	淺黃俊次郎著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	38	尋五の理	調 東京高師	坊田壽眞著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	37	尋五の工	調 東京高師	横井曾一著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	36	尋五の圖	調 東京高師	大竹拙三著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	35	尋五の唱	調 東京高師	三本重長著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	34	尋五の工	調 東京高師	岩瀬六郎著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	33	尋五の圖	調 東京高師	佐藤徳市著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	32	尋五の唱	調 東京高師	田中豊太郎著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	31	尋五の工	調 東京高師	高村廣吉著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	30	尋五の圖	調 東京高師	坊田壽眞著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	29	尋五の唱	調 東京高師	横井曾一著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	28	尋三の理	調 東京高師	大竹拙三著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	27	尋三の工	調 東京高師	高村廣吉著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科
全教書方	26	尋三の圖	調 東京高師	横井曾一著	新四六判布裝入	價〇・四五	○六	送科

☆修身教育

生活訓練と道德教育	野村芳兵衛著	四六判洋布装 入	價二・八〇	送科
現代修身教育指針	千葉春雄編著	菊判 入	價二・三〇	送科
懶みの修身	木村文助著	四六判洋布装 入	價二・六〇	送科
生活行の修身教育(全六冊)	斎藤榮治著	菊判洋布装 入	各二・八〇	各送科
労働創造の修身教育	河野通頼著	菊判洋布装 入	價二・五〇	送科
全人格的生活と修身教授の諸相	河野通頼著	四六判洋布装 入	價二・五〇	送科
修身身教教育問答	河野通頼著	四六判洋布装 入	價二・五〇	送科
共同體社會を基調とする尋	河野通頼著	四六判洋布装 入	價二・五〇	送科
尋一修身指導書	河野通頼著	四六判洋布装 入	價二・五〇	送科
人格主義の倫理と修身	河野通頼著	四六判洋布装 入	價二・五〇	送科
最近修身教育實踐の進歩	厚生閣編輯部編	菊判洋布装 入	價二・五〇	送科
修身教育の實踐	松本光亮著	菊判洋布装 入	價二・九〇	送科

☆國語教育

國語教育學	東京高師 講師	丸山林平著	菊判背革裝 入	價四・二〇	送科
辨證法的國語學習	東京高師 講師	齋藤榮治著	四六判洋布装 入	價二・三〇	送科
國語科要旨の批判と解說	東京高師 前講導	宮川菊芳著	四六判洋布装 入	價一・八〇	送科
國語教育診斷	東京高師 前講導	武藤要著	四六判洋布装 入	價二・八〇	送科
國語の本質とその教育	廣島高師 講師	佐藤德市著	四六判布装 入	價二・六〇	送科
小學國語讀本の指導とその理論	東京高師 前講導	齋藤榮治著	四六判布装 入	價二・六〇	送科
國語教材内観の方法	東京高師 前講導	千葉春雄編著	菊判 入	價〇・六〇	送科
最近の文學・文章研究と國語教育	東京高師 前講導	千葉春雄編著	菊判 入	價〇・八〇	送科
國語教育の修身的考察	東京高師 前講導	千葉春雄編著	菊判 入	價二・七〇	送科
國語讀本の指導とその理論	東京高師 前講導	千葉春雄編著	菊判 入	價二・五〇	送科
國語教育の科學的研究	東京高師 前講導	千葉春雄編著	菊判洋布装 入	價二・五〇	送科
國語教育の方法學的研究	東京高師 前講導	千葉春雄編著	菊判洋布装 入	價二・五〇	送科

日本精神の發揚と國語教育	東京高師	千葉春雄編	菊判布裝	價二・五〇	送料
國語教 育中心児童讀物の系統的研究	東京高師	宮川菊芳、成作共著	四六判美裝	價一・八〇	送料
國語讀本を 戲曲化せる	東京高師	三浦成作共著	四六判美裝	價三・〇〇	送料
高等讀本を 戲曲化せる	東京高師	宮川菊芳、共著	四六判美裝	價二・五〇	送料
新讀本	東京高師	三浦成作著	四六判美裝	價一・五〇	送料
的解説	前訓導	菊判洋布裝	入	價二・六〇	送料
新讀本	前訓導	佐藤德市著	菊判洋布裝	價二・九〇	送料
形象の讀み方教育	廣島高師	森本安市著	四六判洋布裝	價一・八〇	送料
辨證法的讀方教育	廣島高師	吉田義則著	四六判洋布裝	價三・四〇	送料
生命の讀方教育	廣島高師	佐藤徳市著	菊判布裝	價一・八〇	送料
態度馴致の讀方教育	東京高師	宮川菊芳著	四六判布裝	價二・六〇	送料
辨證的日本精神への讀方教育	東京高師	千葉春雄著	菊判洋布裝	價一・八〇	送料
讀み方教育要說	東京高師	吉田義則著	四六判洋布裝	價一・八〇	送料
讀方教育の鑑賞	東京高師	宮川菊芳著	四六判美裝	價二・〇〇	送料
讀方教育問答	前訓導	宮川菊芳著	四六判布裝	價二・〇〇	送料
實踐解明の読み方教育	前訓導	谷口徹美著	菊判洋布裝	價二・三〇	送料
組織的實踐の読み方教育	東京女高師	谷口徹美著	四六判布裝	價二・〇〇	送料
實力養成の読み方指導	東京高師	德田進著	菊判洋布裝	價四・五〇	送料
讀方科各學年指導主眼點の研究	前訓導	千葉春雄編	四六判布裝	價一・八〇	送料
讀方科教材研究の仕方	前訓導	千葉春雄編	四六判布裝	價一・八〇	送料
讀方科に於ける書取の研究	前訓導	千葉春雄編	四六判布裝	價一・八〇	送料
讀方科學習帳使用に關する研究	前訓導	千葉春雄編	四六判布裝	價一・八〇	送料
讀方科に於ける板書の研究	前訓導	千葉春雄編	四六判布裝	價一・八〇	送料
讀方科各學年指導主眼點の研究	前訓導	千葉春雄編	四六判布裝	價一・八〇	送料
讀方科教育實踐の進歩	厚生閣編輯部編	菊判洋布裝	價二・五〇	送料	
最近讀方教育實踐の研究	前訓導	千葉春雄編	四六判布裝	價一・八〇	送料
讀本朗讀の實踐的研究	前訓導	千葉春雄編	四六判布裝	價一・八〇	送料
讀方科考査の研究	東京高師	千葉春雄編	四六判布裝	價二・五〇	送料
國語アクリシント辞典	東京文理大教授常深千里著	菊判洋布裝	價二・五〇	送料	
小學國語讀本朗讀法(卷一前期用)	東京文理大教授神保格著	菊判洋布裝	價〇・八〇	送料	

小學國語讀本朗讀法(等一後期用)

(卷二)

東京文理 大教授 神保 格著 菊美菊 櫻列 價〇・九〇 送科

小學國語讀本朗讀法(等二前期用)

東京文理 大教授 神保 格著 菊美菊 櫻列 價一・一〇 送科

小學國語讀本朗讀法(等二後期用)

東京文理 大教授 神保 格著 菊美菊 櫻列 價一・一〇 送科

小學國語讀本朗讀法(等三前期用)

東京文理 大教授 神保 格著 菊美菊 櫻列 價一・一〇 送科

綴り方指導系統案一覽表

前編 千葉春雄著 拝入 價〇・一五 ○二

調べた綴り方とその實踐

上田庄三郎著 四六判布装 横用 價二・二〇 送科

教室用綴り方

富原義徳著 四六判布装 横用 價二・九〇 送科

村の綴り方

木村文助著 四六判布装 横用 價二・三〇 送科

土の綴り方

富原義徳著 四六判布装 横用 價二・六〇 送科

新文話と綴り方教育

佐々井秀緒著 四六判布装 横用 價〇・四〇 ○八

綴り方のわけいこ

(全六冊) 東京高師 前編 千葉春雄編 横用 價〇・四〇 送科各

綴り方教科の施設と經營

東京高師 前編 千葉春雄編 横用 價一・九〇 送科

最近の文學と綴り方教育

志垣寛著 四六判美装 價一・八〇 送科

生活させる綴り方指導

古見一夫著 四六判布装 價二・一〇 送科

低学年の綴り方

金子好忠著 四六判布装 價二・六〇 送科

生活開發の綴り方教育

川口半平著 四六判洋布装 價二・〇〇 送科

綴り方心理學

西山庸平著 四六判洋布装 價二・八〇 送科

綴り方教育問答

東京高師 前編 千葉春雄著 四六判布装 價二・〇〇 送科

綴り方教育の實用

川村章著 四六判布装 價二・〇〇 送科

手紙日記と綴り方教育

藤原信著 四六判布装 價二・〇〇 送科

本義綴り方教育

武藤要著 四六判布装 價二・三〇 送科

科學的綴り方教育の設營

佐々井秀緒著 四六判洋布装 價二・〇〇 送科

子供の郷土研究と綴り方

峯地光重著 四六判美装 價一・五〇 送科

☆兒童詩教育

批評と小學兒童の詩

百田宗治著 四六判美装 價一・九〇 送科

こどもの詩教育

佐々井秀緒著 四六判布装 價二・三〇

・四科

生活への児童詩教育

稻村謙一著 四六判美装

入 價二・〇〇

・四科

日本児童新詩集

吉田瑞穂著 四六判

美装 價一・五〇

・四科

童謡鑑賞の実際

河野伊三郎著 四六判布装

入 價一・八〇

・四科

詩の指導と綴方教育

久保田宵二著 四六判美装

入 價二・〇〇

・四科

☆話方教育

話し方指導の理論と実際

河上信量共著 四六判洋布装

入 價一・八〇

・四科

話し方・聞き方の実際研究

前調導 千葉春雄編 四六判布装

入 價一・八〇

・四科

お話をそびと小さい劇

長尾 豊著 四六判美装

入 價一・六〇

・四科

童話と其味ひ方解説

長尾 豊著 四六判美装

入 價一・一〇

・四科

歌とお話の戯曲化の仕方集

長尾 豊著 四六判布装

入 價二・〇〇

・四科

國語讀本教材お話集(第二編)

長尾 豊著 四六判美装

入 各一・八〇

・四科各

☆書方教育

書方教育問題答

水戸部寅松著 四六判布装
前調導

入 價二・〇〇

・四科

☆算術教育

現代生活性算術

三本重長譯著 四六判布装
前調導

入 價二・五〇

・四科

グラフ化の算術教育

稻次靜一著 四六判洋布装
前調導

入 價三・二〇

・四科

最近算術教育實踐の進歩

厚生閣編輯部編 四六判洋布装
前調導

入 價二・五〇

・四科

實驗算術の原理と實際

森 三郎著 四六判洋布装
前調導

入 價二・五〇

・四科

數學教育の諸問題

村上義著 四六判布装
前調導

入 價二・六〇

・四科

小學算術の根本解義と指導(第一期用)

稻次靜一著 四六判洋布装
前調導

入 價二・三〇

・四科

國史教育の革新

海老澤匡著 四六判洋布装
前調導

入 價三・二〇

・二二科

國史教育の改革

文藝士前本一男編 四六判洋布装
前調導

入 價二・五〇

・一四科

小學國史教材と教授法(尋五用)

西龜正夫著 四六判背布装
前調導

入 價一・九〇

・一四科

國史教育問答

大久保馨著 四六判布装
前調導

入 價二・〇〇

・四科

最近 國史教育實踐の進歩

厚生閣編輯部編 菊判洋布
四六判美術 入 價二・五〇・一四
送科

小説化せる 兒童劇脚本

長尾豊著 菊判洋布
四六判美術 入 價二・三〇・一四
送科

☆地理教育

菊判洋布
入 價三・四〇・二二
送科

地理教育の新思潮と實際經營

海老澤匡著 菊判洋布
入 價三・四〇・一八
送科

地理新教育精義

前原導菊地勝之助著 菊判洋布
入 價三・四〇・二二
送科

郷土地理の調べ方と實例

西龜正夫著 菊判洋布
入 價一・八〇・一四
送科

滿洲國中心支那地理

西龜正夫著 菊判洋布
入 價三・四〇・一四
送科

改訂小學地理教材と教授法(尋五用)

西龜正夫著 菊判洋布
入 價一・九〇・一四
送科

改訂小學地理教材と教授法(尋六用)

西龜正夫著 菊判洋布
入 價二・〇〇・一四
送科

改訂小學地理教材と教授法(高二用)

西龜正夫著 菊判洋布
入 價一・六〇・一四
送科

改訂小學地理教材と教授法(高一用)

西龜正夫著 菊判洋布
入 價一・八〇・一四
送科

地理教育實踐の進歩

厚生閣編輯部編 菊判洋布
入 價二・五〇・一四
送科

最近地理教育實踐の進歩

西龜正夫著 菊判洋布
入 價一・六〇・一四
送科

小學地理

西龜正夫著 菊判洋布
入 價一・八〇・一四
送科

地理教育實踐の進歩

長尾豊著 菊判洋布
入 價二・八〇・一四
送科

地理教育實踐の進歩

齊藤英夫著 菊判洋布
入 價二・〇〇・一四
送科

地理教育實踐の進歩

長尾豊著 菊判洋布
入 價二・八〇・一四
送科

地理教育實踐の進歩

齊藤英夫著 菊判洋布
入 價二・〇〇・一四
送科

地理教育實踐の進歩

厚生閣編輯部編 菊判洋布
入 價二・五〇・一四
送科

小學校理科實驗指導細說

氏家勇記著 菊判洋布
入 價二・八〇・一四
送科

理科教育問答

東京高師 堂東傳著 菊判洋布
入 價二・〇〇・一四
送科

小學理科を體化せる兒童劇脚本

東京高師 長尾豊著 菊判洋布
入 價二・五〇・一四
送科

最近理科教育實踐の進歩

厚生閣編輯部編 菊判洋布
入 價二・五〇・一四
送科

☆音樂教育

新音樂教育の研究

北村久雄著 菊判洋布
入 價四・八〇・二二
送科

高學年音樂生活の指導(特に中學)

北村久雄著 菊判洋布
入 價三・二〇・二二
送科

正しい音樂生活の指導(年の研究)

北村久雄著 菊判洋布
入 價三・〇〇・二二
送科

國語として観たる音樂

青柳善吾著 菊判洋布
入 價一・四〇・一八
送科

やさしい獨唱と輪唱曲集

坊田かすま著 菊判洋布
入 價一・二〇・一八
送科

音樂教育の實際問題

青柳善吾著 菊判洋布
入 價一・八〇・一四
送科

心靈化唱歌・綜合教育

坊田壽眞著 菊判洋布
入 價一・八〇・一四
送科

動作の心靈化やさしい唱歌(正確)

厚生閣編輯部編 菊判洋布
入 價各一・〇〇・一八
送科

唱歌あそびと小さい唱歌劇

長川信

著曲菊判價一・〇〇

送科

唱歌 教育 問答

東京高師前講導

青柳善吾著六判布入價二・〇〇

送科

☆舞踊教育

體育教材としての學校舞踏三十四講

赤間雅彦著菊判洋布入價一・五〇

送科

本體育舞踊の理論と實際

體育會石井小浪著菊判洋布入價一・五〇

送科

幼稚園の舞踊

石井小浪著菊判價〇・八〇

送科

尋二の舞踊

石井小浪著菊判價〇・八〇

送科

尋一の舞踊

石井小浪著菊判價〇・八〇

送科

手工指導書

霜岡正雄著菊判等一一各四各一・五〇

送科

小學校用器畫法

松岡正雄著菊判等五一各二〇〇・一四

送科

新手工科教授細案

武田忠雄著菊判一・五〇

送科

手工教育問答

和歌山富山康親著菊判一・九〇

送科

手工教育問答

和歌山富山康親著菊判一・九〇

送科

圖案の教育

霜岡衛著四六判美裝價二・五〇

送科

圖案の學習

霜岡衛著四六判美裝價二・三〇

送科

幼稚園の生活圖畫指導

三森連象著四六判美裝價二・六〇

送科

圖畫指導の生かし方と要領

日本美育會編菊判各〇・六〇

送科

圖畫教育問答

廣島大竹拙三著四六判布入價二・〇〇

送科

體育新心理學

齋藤薰雄著菊判洋布入價二・三〇

送科

兒童陸上競技の指導と實際

齋藤薰雄著菊判一郎共著四六判布入價二・八〇

送科

小學校遊戲競技全教材とその指導

齋藤薰雄著四六判美裝價一・五〇

送科

學藝會運動會の新研究

北村久雄著菊判美裝價二・八〇

送科

體操教育問答

東京高師前講導齋藤薰雄著菊判美裝價二・〇〇

送科

最近學校體操實踐の進歩

厚生閣編輯部編菊判洋布入價二・五〇

送科

☆家事教育

☆圖畫教育

家事の実際知識

秋間保郎著

菊判背布装

入價二・九〇。一八

家事教育問題答

東京女高師

佐々木君代共著

四六判布装

入價二・〇〇。一四

☆作法教育

洋現代国民作法實演

大日本作
法普及會

山口和喜著菊

判價一・五〇。

送科一四

☆裁縫教育

裁縫指導細目(等四用・等五用・等六用)

菊判(等四)〇・八〇(等六)一・〇〇

菊判(等五)〇・九〇

送科一〇

裁縫指導細目(高一用)

菊判(高二用)

菊判(高人監編)

菊判(前編)一・〇〇

送科一・〇〇。

洋裁洋裝事典

菊判(前編)

菊判(三六判洋布装)

入價一・五〇

送科〇・八〇

裁縫手藝に關する色彩指導法

菊判(前編)

菊判(本間良助著)

入價三・〇〇

送科一・四

裁縫教育問答

東京女高師前編

田原美榮著

四六判布装

入價二・〇〇。一四

☆手藝教育

手藝指導細目(高等科用)

菊判(高等科用)

菊判(高等科用)

入價〇・九〇

送科各一〇

創作的手藝學習の指導

菊田コト著

四六判美裝

入價二・〇〇

送科一四

代現手藝教育最新資料と指導の實際

菊田コト著

四六判美裝

入價二・〇〇

送科一四

347

639

2